

詩とダンスのワークショップ「沈黙の語り」

2019年3月9日(土)14:00～16:00

大阪大学豊中キャンパス 全学教育総合棟13階 341号室 (COデザインスタジオ)

なぜ人は詩を詠み、絵を描き、音楽を奏で、踊るのか。

18世紀フランスの哲学者デイドロは『聾啞者書簡』のなかで、芸術を一つのコミュニケーションとして論じ、芸術による語りに特別な力を認めた。詩、絵画、踊り、これらはわたしたちが通常コミュニケーションに用いる「言葉」よりはるかに沈黙に満ちている。この静寂に潜む語りの力を、デイドロとぱくきょんみ氏の詩論に関するレクチャー、詩の朗読と詩のダンスへの翻訳を通じて検討する。

詩の朗読 ぱくきょんみ
ダンス 山田せつ子 岡元ひかる

レクチャー 川野恵子



山田せつ子©高島史於



岡元ひかる©塚田洋一

出演者：



ばくきょんみ

詩人/東京に在日韓国人二世として生まれる。主著に、詩集『すうぷ』(ART+EAT BOOKS)、『そのコ』『何処何様如何草紙』(以上、書肆山田)、エッセイ集『庭のぬし 思い出す英語のことば』(クインテッセンス出版)、『いつも鳥が飛んでいる』(五柳書院)、絵本『はじまるよ』『ごはんはおいしい』(福音館書店)。

山田せつ子

ダンサー・コレオグラファー/京都造形芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員/明治大学演劇学科在学中、舞踏を笠井叡に師事。独立後ソロダンスを中心に独自のダンスの世界を展開し、国内外での公演を多数おこなう。作品『FATHER』『夢見る土地』『薔薇色の服で』など多数。著書『速度ノ花』(五柳書院)

岡元ひかる

ダンス研究・批評/ダンサー 神戸大学大学院博士課程後期課程在籍。オハッド・ナハリンのGAGAや土方巽の舞踏に注目しながら、舞踊訓練と振付における言語使用に関する研究を行う。横浜ダンスコレクションEX2014 コンペティションII 奨励賞受賞。

企画者：川野恵子(日本学術振興会 海外特別研究員/17-18世紀フランス美学研究)
+ 中島那奈子(「老いと踊り」を中心としたダンス研究及びドラマツルギー)
+ 山森裕毅(大阪大学COデザインセンター特任講師/臨床実践の哲学的・記号論的研究)

お申し込み方法

1)氏名、2)電話番号、3)メールアドレス、4)参加動機を添えて、下記アドレスまでメールにてお申し込みください。

(受付終了後、一週間以内に詳細メールをお送りします。個人情報は本企画終了後、速やかに廃棄します。)

【締め切り】 2019年3月5日(火)。【定員】 15名。(応募者多数の場合は先着順)

申し込み・お問い合わせ先

川野恵子 artworkshop55[アット マーク]gmail.com

※ワークショップ参加者の方には、詩やダンスの創作に加わっていただく予定です。軽い身体接触を予定していますが、抵抗のある方は遠慮なく、お申し出ください。

※オーディエンス席をご用意します。ワークショップには参加せずに、見学だけをご希望の方は申し込み不要です。自由にお越しください。

本企画はJSPS科研費18H05564の助成を受けたものです。

会場へのアクセス

会場：大阪大学豊中キャンパス 全学教育総合棟I3階 341号室 (COデザインスタジオ)

所在地：560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16

最寄駅：

- 阪急電車宝塚線
石橋駅(特急・急行停車)下車 東へ徒歩・全学教育推進機構 約15分
- 大阪モノレール
柴原駅下車 徒歩約7~15分

